

【御前落居記録】

(足利義教)
在判

八三三

一、應司大納言家雜掌与中嶋加賀守隆信相論加賀國益富保領家職事

當保領家職者、坊城少納言益長去應永廿九年給之。爰去年十一月十二日以御書被返付應司家訖。則可被成施行之處、如隆信支狀者、爲地頭進止之領家、於下地者更不可有領家之綺之由申之。如雜掌重狀者、自永德三年至應永十三年、粟田口長副卿爲家門代官知行之。其以後至同十九年者、二宮信濃入道子細同前。而當國守護職改補之刻、掠給中嶋御判、剩號地頭進止、萬疋分可致沙汰之旨、乍申載御判、自翌年令減少五拾貫文、結句彼五千疋内、尙令不法之上者、云彼云是可直務之由稱之。仍被尋問評定衆之處、意見區也。所詮應永廿年八月十五日堅乍帶本所補任狀、年貢難澁者、非無僻事歟、重被糺明之處、未進年々在之。但如隆信陳狀者、惣保内河邊分富樫兵部大輔押妨之條就敷申、應永廿五年被仰付

守護人故介、去渡以來至五拾貫者、無未進致其沙汰帶請取云々。又雜掌狀云、當所者、領家下地十五名也。彼河邊者、爲二分地頭中嶋號照何可混領家哉之旨申之。兩方申詞枝葉雖多、去應永廿五年故介渡狀者、不限河邊分、物保違行上者、雷對守護人取安堵思歟。如此奉掠上聞之條、且難遁其咎、且以嚴密之文章、乍帶本所補任無沙汰間、旁隆信所申非無其謂、然早任去年御書、可渡付下地於雜掌之由、可成施行也焉。

永享三年六月十九日 (飯尾) 貞連 在判
左衛門尉秀藤 在判

六月廿七日。足利義教、飯尾貞連に、加賀國若林村を知行せしむ。

【飯尾文書】

(足利義教)
在判

八三三

加賀國若林村事、所充行飯尾大和守貞連也。者、早守先例、可致沙汰之狀如件。

永享三年六月廿七日

【飯尾文書】

〇

八二四

加賀國若林村事、早任今月廿七日御判之旨、可沙汰付飯尾大和守貞連代之由、所被仰下也。仍執達如件。

永享三年六月廿九日

(斯波義隆)
左兵衛佐 在判

富樫介殿 (持春)

【飯尾文書】

〇

八二五

加賀國若林村事、早任去月廿九日御施行之旨、所可沙汰付飯尾大和守貞連代也。仍狀如件。

永享三年七月四日

(持春)
富樫介 在判

山河筑後守殿 (家之)

【飯尾文書】

〇

八二六

加賀國若林村事、早任今月四日御遵行之旨、可渡付飯尾

大和守代之由、所被仰下也。仍狀如件。

永享三年七月五日

(山河)
筑後守家之 在判

進藤次郎左衛門入道殿

(加賀國若林村の所在は今知るべからず。)

十月八日。足利義教、土倉方衆中をして、北野社松梅院禪能の質地江沼郡富墓・福田兩莊の下地を光聚院雜掌に交付せしむ。

【御前落居奉書】

(足利義教)
在判

八二七

松梅院禪能知行分、加賀國富墓・福田兩莊、和泉國坂本庄美作國吉野・林野兩保等事、就禪能借物可被渡下地於光聚院雜掌之由候也。仍執達如件。

永享三十月八日

(飯尾)
貞連 (飯尾)
爲種

土倉方一衆中

永享四年

壬子

紀元二〇九二